

# 敬虔とは?

Reverence — To live in awe of God?

国際基督教大学教会棕欄の主日礼拝, 2011年4月17日

鈴木寛 (Hiroshi Suzuki)\* (教会員)

## 聖書:

ソロモンがよんだ都もうでの歌  
主が家を建てられるのでなければ、建てる者の勤労はむなし。主が町を守られるのでなければ、守る者のさめているのはむなし。あなたがたが早く起き、おそく休み、辛苦のかたを食ふことは、むなしのことである。主はその愛する者に、眠っている時にも、なくてならぬものを与えられるからである。見よ、子供たちは神から賜わった嗣業であり、胎の実は報いの賜物である。壮年の時の子供は勇士の手にある矢のようだ。矢の満ちた矢筒を持つ人はさいわいである。彼は門で敵と物言うとき恥じることはない。

口語訳：詩篇 / 127 篇 1-5 節

## Introduction: Thai Work Camp

ICU 宗務部主催で ICU 教会からも様々なサポートを頂いているタイ・ワークキャンプが北中晶子牧師をリーダーとして3月12日から21日に計画され、わたしもお手伝いさせて頂くことになっていました。タイ・ワークキャンプはICUの学生とタイのチェンマイにあるパヤップ大学の学生とが協力して、タイの山地族の村で一緒に生活をし、村の人と共に教会堂を建てるというプロジェクトです。今回で29回目となる予定でした。

しかし出発予定の前日の3月11日に東日本大震災が起こったため、様々な要因を考慮し、北中先生と祈りつつ、永田先生のご意見も伺って中止することに決めました。昨年末に参加者を受けつけ、今年に入ってからは毎週参加者全員で集まって準備をし

てきました。長い間アルバイトをしてきた学生たちや、タイのパヤップ大学、山地族の村の人達のことを考えると、正直苦しい決断でしたが、このことを通して神様が与えて下さったことすべてを参加予定だった学生達と共に受け止めたいと願っています。

来年の春には、是非、ここにいらっしゃる何人かの皆さんと共に、タイ・ワークキャンプが実施できればと祈り始めています。

## 自由にして敬虔

皆さんは「自由にして敬虔」という言葉を聞いたことがありますか。国際基督教大学は1953年に開学されましたが、その開学の年の大学要覧には大学設立の目的が次のように記されています。

その意図する所は、深く基督教精神に根ざした自由にして敬虔な学風を樹立し、神と人と共に奉仕する共同社会の市民たるにふさわしい全人教育を青年男女に施すにある。

国際基督教大学要覧 1953-1954

この言葉は現在の大学ホームページや学生ハンドブックにある文章にも引き継がれ、

国際基督教大学は、基督教の精神に基づき、世界人権宣言の原則のもと、自由にして敬虔なる学風を誇りとしています。

ICU ホームページ 使命と沿革 三つの使命

と「使命と沿革」の一番最初に書かれています。

個人的には国際基督教大学の教員の一人として「自由にして敬虔なる学風を誇りとしています。」とは言い切れませんが、わたしはこの言葉がなんとなく好きで、自分の個人的なメールアドレスにも使っています。あくまでも「なんとなく」ですが、このことばとイエス・キリストが重なる部分が多いと感じているからです。

\*Email: [hsuzuki@icu.ac.jp](mailto:hsuzuki@icu.ac.jp)

†URL <http://subsite.icu.ac.jp/people/hsuzuki/>

そこで今日は皆さんとこの「自由にして敬虔」という言葉について、特に「敬虔」について考えてみたいと思います。

## 敬虔は想像力

### 自由にして敬虔

皆さんは「敬虔」ということばを聞いてどのようなことをイメージしますか。先ほどの「自由にして敬虔」の英語は“Freedom and Reverence”となっています。実はこの「敬虔」ということばは聖書には殆ど出てきません。しかし英語の“reverence”やそれと関連した動詞の“revere”はたくさん出てきます。その日本語は「神を畏れる」という言葉です。

では「敬虔に生きる」とは、すべてをご存じである神様の裁きの厳しさに恐れおののきながら日々を生きることでしょうか。謙虚さをもって生きることには確かに「敬虔に生きる」ことの一部であると思います。

### たいせつなこと

わたしは、特に一般教育科目で、いろいろなトピックについて受講生に書いてもらい、ひとりひとりにコメントを書き、また学生に許可をもらって、ホームページにも載せています。そのうちの一つは「あなたにとって一番たいせつな（または、たいせつにしたい）もの、ことはなんですか。」という質問です。圧倒時に多い答えは「家族・友人」ほかには「時間とお金」「自分・自分らしさ」「自然・地球」「平和」などと続きます。

わたしは、たとえば「たいせつな『もの』や『ひと』をたいせつにして生きるの簡単ではありません。それをたいせつにしていって下さい」とか「たいせつなひとにとってのたいせつなものをたいせつにすることで、たいせつなひとをたいせつにできるとよいですね」とか「自分自身で完結する価値観から、開かれた価値観へと解放されるには、どのようなことがたいせつでしょうか」と書いています。

このようなメッセージのやりとりを通して、わたしが受講生ひとりひとりにとってのたいせつなものに思いをはせると共に、すこし唐突かもしれませんが、受講生たちが、たいせつなことを考えることを通して、自分の中で完結しない、恐れ畏む（おそれかしこむ）存在に目を向けてほしいと願っているからです。

「『たいせつなもの』を言葉で表現するほどには、自分と向き合ったことがない自分を発見させられた」

とのコメントに出会い、わたし自身が恐れ畏む（おそれかしこむ）存在に目を向けさせられたこともあります。

### 主が建てられる

今日の聖書の箇所は、今回タイ・ワークキャンプの準備をしていて、わたしが個人的に出会った聖句です。有名な詩編ですから、ご存じの方も多いでしょう。

わたしが今回衝撃を受けたのは「主が建てられるのでなければ」とはじまっていることです。「主がともにいて働いて下さらなければ」とか「主が支えて下さらなければ」とは書いてありません。

最初に「ソロモンがよんだ都もうでの歌」と添えられています。「主の家」である神殿はダビデが資材を整え、ソロモンのもとで建てられたものでした。そのソロモンの名を冠して「主が建てられるのでなければ」とこの詩編は始まっています。そして「主が町を守られるのでなければ」と続きます。

わたしは「敬虔」とは「わたしたちの日常的な営みが、神のはたらきのうちにあることを知り、神の御手のはたらきをみとめることをとおして、神様のすばらしさをほめたたえること」ではないかなと思っています。

### 主の働きをみとめる

わたしは学生とはなす機会がよくあります。そしてそのときをたいせつにしたいと願っています。そこで、意識しているのは、神様がその一人の学生をどのように導いておられるのだろうか、まさにその学生の今とそして、その history を聞きながら、His Story 神様の物語に目を向けさせて頂くように祈りつつ聞き、語ることです。

複雑な問題を抱えた学生のときもありますが、とても優秀でまったく問題がなく、このひとには神様は必要ないのではないかと感じさせられるときもあります。どのようなときにも、そのひとりの学生における神様の働きに目を向けることができるよう祈りながら話を聞くようにしています。

その学生が直面している、具体的な問題の解決には到らないかも知れないけれど、その学生とわたしが共有しはじめるもののさらにその奥にあるものに共に会うことができるようにと願っています。

### 想像力・それを培うもの

わたしは「敬虔に生きること」の鍵は「想像力」ではないかと思っています。それは神様の働きを想像

する力です。しかし、なにも神がかりてきな「靈感」などということを行っているわけではありません。ソロモンのように「主が家を建てられるのでなければ」「主が町を守られるのでなければ」といった目で神様の働きを見てとる想像力です。

わたしたちの周囲や、世界での様々な出来事とその背景を学ぶことは、わたしたちが生きているこの世界のさまざまな場所で働かれる神様の働きを想像するために生かされるでしょう。その意味で、学問を学ぶことも、深いところで働かれる神様について知ることにつながるでしょう。

また、様々なひととの出会いを大切にすることで、わたしのような者をも愛して下さっている神様の、私がかんがえすることが出来ないひとりのひとに対する愛について、想像することができるようになるかもしれません。そして、自分に対してとは違った方法で働かれる神様と出会い、なんとなく近づきたい、神様とはかなり遠い存在なのではないかと思うような人に対して、またはそのような人を通して、神様がどのように働かれるかを想像できるようになるかもしれません。

また、ともに働くことを通して、自分がなしていることが、じつは多くの人たちの働きと呼びあってひとつのものをづくりあげていること、そして自分たちが協力して造り上げ、建てあげていると思っていたものが、じつは神様が建てておられるものだという事に気づき、「主が建てられるのでなければ」と告白することにつながるかも知れません。

## 神様の働き？

わたしたちが信じる神様の働きであることを確認するには、聖書を通して神様のはたらきをしり、聖書の中で証されている神様のわざと照らしつつ、日常のなかで神様の働きに出会うことことが必要でしょう。

それが個人的な営みでおわることなく、神を畏れ、日常の生活で神様の働きに出会おうとするものたちが、それを分かち合うことができればさらに素晴らしいことです。教会はそのような者達の集まりであると信じています。そして、国際基督教大学もそのような者達の集まりとして「自由にして敬虔な学風を誇りと」することができるようになることを祈っています。

## おわりに

「障害者郵便制度悪用事件」に関する虚偽公文書作成の疑いで逮捕拘留された村木厚子さんが「拘留中

にどのようなことを考えておられましたか。」とのNHK ラジオのインタビューに答えて、「逮捕されて失ったもの、得たものを考えてみたら、仕事とか失ったようではあるけれど、自分にはこんなにも支援してくれる家族や友人があったのだという発見があった。知り合いの弁護士さんにも真実は強い、と言われて無罪を確信し、失うものはないと思った。」「逮捕されて、一度はすべてを失ってしまった、と思ったけれども、私は変わっていないし、何も失っていないんだ、と気がつきました。」と言っておられました。

村木さんの経験にくらべようもありませんが、わたしも、居場所、働き場所を失ったような気がして苦しんでいた時期がありましたが、しばらくして、感じたのはまさにここで村木さんが語っておられる事でした。「すべて失ってしまった、変わってしまったと思ったけれども、実は何も変わっていないし、何も失っていないんだ」ということです。

自分が建てているとと思っているもの、自分が守っていると思っているものは、失ったり、変わってしまうことがあるかも知れません。しかし、神様の働きに目を向けるとき、わたしたちは、今日の詩編の記者のように、告白することが出来るのではないでしょう。

みなさんは、「主が家を建てられるのでなければ、主が町を守られるのでなければ」と告白して生活していますか。主に目を止めるとき、かわらないもの、あってあるもの、それがわれわれのよりどころであることを確認出来るのではないのでしょうか。自分の時代でおわる、自分の人生を絶対化しないそのなかで、主の働きに目を止められるのではないのでしょうか。

そのように、自由にして敬虔に生きることが出来ればと願っています。

## 祈り

祈ります。

神様、どうか私たちの日常の中で、あなたの働きをみとめ、「主が家を建てられるのでなければ」「主が町を守られるのでなければ」わたしたちが苦勞して働くその働きはむなしいと、告白して生きていくことが出来るようにして下さい。

ここにおられる一人一人が、そして、敬虔に生きる者達のこの共同体としてのICU教会が、さらに、国際基督教大学があなたによって建てあげられますよう祈ります。

主イエス・キリストの御名によって祈ります。

アーメン。